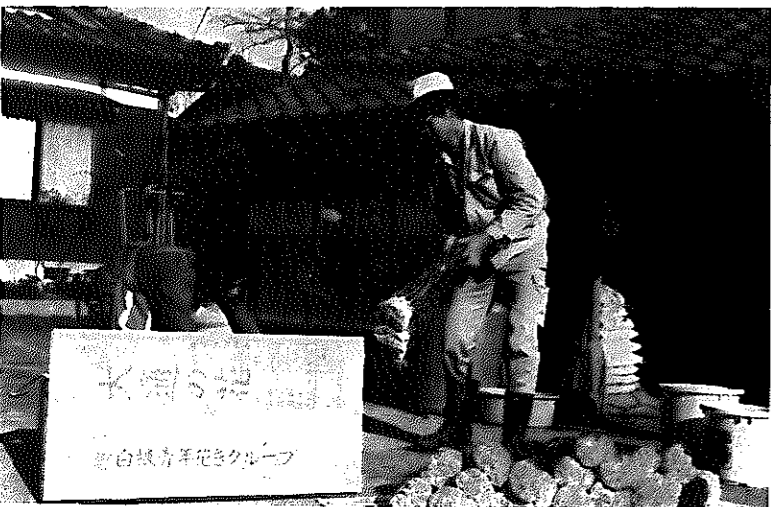


挑む！明日の農業へ



「日照時間で、量が決まります」。この日は、前日がよい天気だったことから、約1000本を出荷



カーネーションのほか稲作、果樹と複合経営を実践。仕事が重なることが、一番の悩みのタネ。奥さんの手で、こん包され市場へ



「花に囲まれて仕事をしていると、苦しかったことも忘れず」と、花の生育に余念がない



ハウスの中は花でいっぱい。一人ではじめたカーネーションの栽培も、いまは愛妻・通代さんと二人三脚。きれいに咲くようにと、かくを丸めます

カーネーション栽培にかける

若き青年農業士・中野さん

しわ寄せ農業をうち破り、独り立ち農業へ夢つなぐ——市内でただ一人、カーネーション栽培に若き情熱をそそぐ青年農業士・中野孝治さん(下大郷二十六歳)をたずねました。

「成功するはずがない」との周囲の反対を押し切って、カーネーションの栽培をはじめたのが七年前。高校を卒業後、神奈川県秦野市に半年間の武者修業。いざ栽培してみると、きれいに咲かない、量産ができないなど問題が続出。悩んだあげく、農業改良普及所の浅井さん(かけ込む)それから

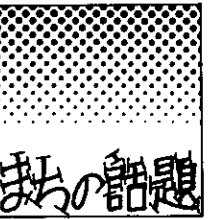
はじまるマンツーマン研究。品種の選定や土じょう、施設の改善などに全力投球。秦野市に足を運ぶこと年四、五回。そのかいあってが、いまでは一日平均五百本のきれいな花を出荷。市場へのメドも明るく、切り開く農業へ一歩前進。

苦しかった当時をしのび「近くにカーネーション栽培をやっている人がいなくて、相談し合うことも、技術の習得もできなかったです」と静かに語る。

「最高の花をめざして、これからも研究することがいっぱい」と、中野さんの瞳はいきいきと輝く。

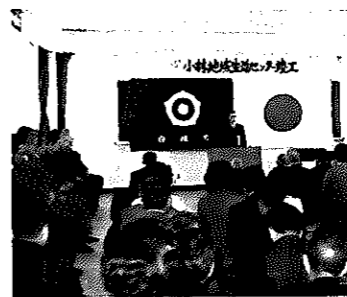


わが子の成長を見守るように、一本一本に細心の注意が—発芽した15,000本の苗は、秋にきれいな花を咲かせて、家庭のお茶の間へ



りっぱな館の完成を祝う—小林

コミュニティづくりの中心施設として誕生した、小林地域生活センターの竣工式が、四月十日行われました。式には、同地区のみなさんはじめ百二十人が出席、盛大に完成を祝いました。徳永徳一区長会長は「人と人との心のふれあいの場ができて、とてもうれしいです。地域発展のために、おおいに活用して行きます」と、話していました。



ちびっ子の楽しい世界 茨曾根保育園が開園

茨曾根、東笠場、沖新保の三つの季節保育所を統合して新設された茨曾根保育園—四月十日、開園式が行われました。



十年間続けた慰問で 子どもたちと熱い友情

このほど、寺泊町のコロナー白岩の里へ、青年学級生がこぞって慰問、子どもたちと楽しい一日を過ごしました。

適切な消火活動の三人に感謝状

「適切な消火活動に感謝します」と、谷川次男さん(戸頭)、深作育男さん、金井節男さん(群馬県高崎市)の三人に消防署から感謝状が贈られました。これは、三月十七日午前三時二十分ころ、戸頭地内で発生した火災を、通りかかった深作さん



元気ではしゃぎまわる百人のちびっ子たち、心はくくむ楽しい世界になることでしょう。「これからは、設備の整った施設で保育が受けられるんですね」と、お母さんたちもうれしそうでした。



老人センターに 座ぶとんを寄贈

四月十五日、「老人センターで役立ててください」と、のぞみ会(大谷貞子会長)が座ぶとん五十枚をプレゼント。これは、同会が三月下旬に行ったバザーの収益金で贈ったもの—温かい善意ありがとうございます。



受賞ノおめでと うございませう

永年、地域の消防活動につくされた功績で、表彰されました。「消防庁長官・日本消防協会長から」大場庄一郎さん(中山)、「日本消防協会長から」吉田三郎さん(諏訪木)、小林春吾さん(新飯田下町)、吉沢敏男さん(丸瀧)

火の用心—風船とチラシでPR

春の火災予防運動期間中の四月五日、白根地区消防本部は、街行く市民に火の用心を呼びかけました。市日できわう新飯田の街中で、風船とチラシを配って防火のPRを行いました。

